

令和6年度新時代の英語教育推進事業

新時代の英語教育推進事業について

山形県教育局義務教育課

村山

小学校

伊藤 智博 先生（山形市立南山形小）

高橋 秀和 先生（天童市立蔵増小）

島津 桜 先生（寒河江市立柴橋小）

三浦 早織 先生（大石田市立大石田小）

中学校

野川 健太郎 先生（山形市立第一中）

樋口 里見 先生（山形市立第四中）

菊地 哲郎 先生（寒河江市立陵東中）

木村 陽香 先生（上山市立南中）

最上

小林 芽依 先生（新庄市立萩野学園）

安藤 由希子 先生（真室川町立真室川小）

佐藤 郁子 先生（新庄市立日新中）

松田 由佳 先生（大蔵村立大蔵中）

置賜

井上 幹也 先生（米沢市立興讓小）

戸田 緑 先生（米沢市立松川小）

安孫子 遥 先生（高畠町立高畠中）

新沼 希美 先生（長井市立長井北中）

庄内

松田 祐樹 先生（三川町立横山小）

池田 友晃 先生（酒田市立琢成小）

高橋 司 先生（三川町立三川中）

佐藤 凜 先生（酒田市立第二中）





講師

の先生

佐藤 博晴 先生（山形大学）

小泉 有紀子 先生（山形大学）

向後 秀明 先生（敬愛大学）

阿野 幸一 先生（文教大学）

金森 強 先生（文教大学）

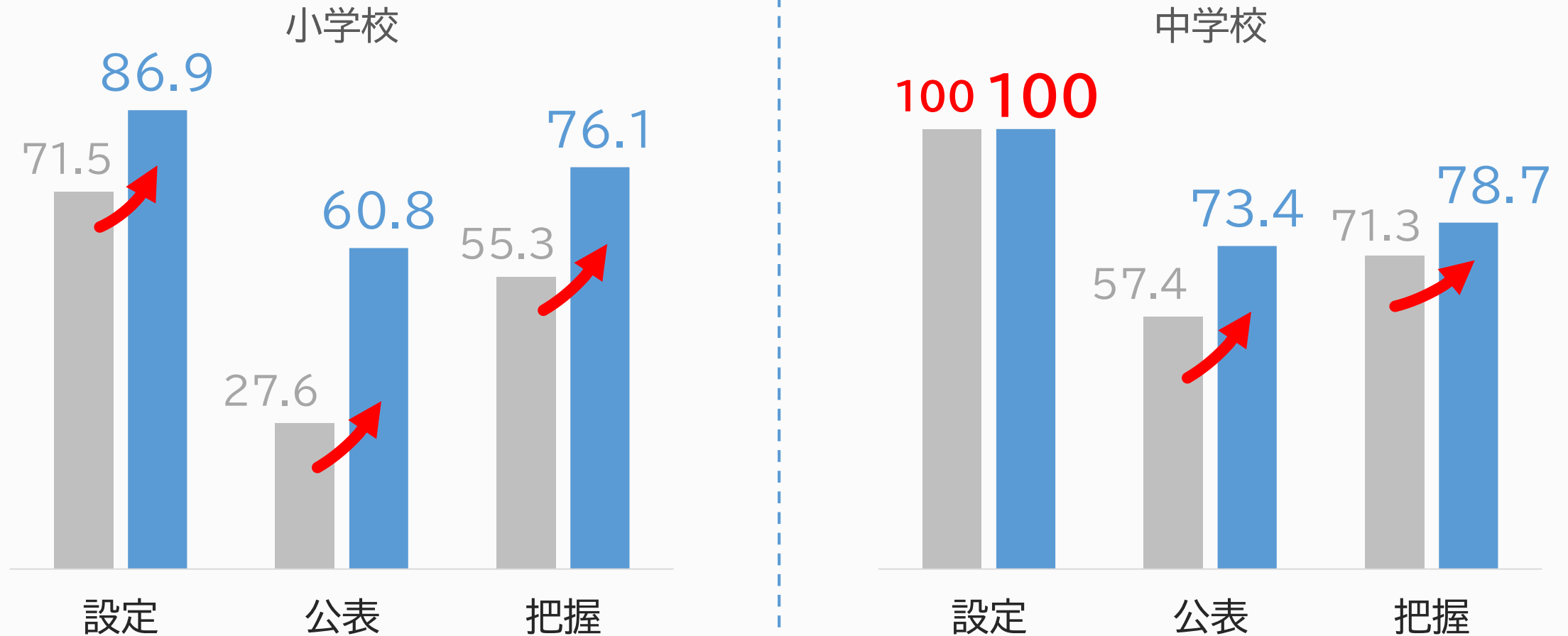
酒井 英樹 先生（信州大学）

太田 洋 先生（東京家政大学）

阿部フォード 恵子 先生

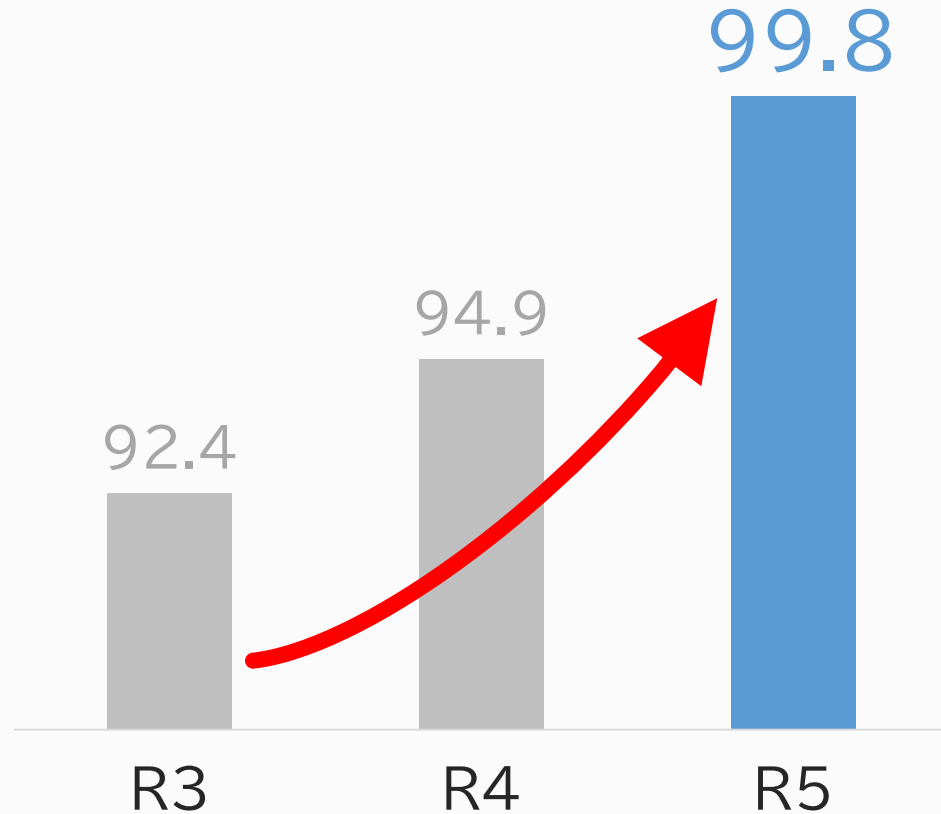
（CALAグローバル）

CAN-DOリストの状況

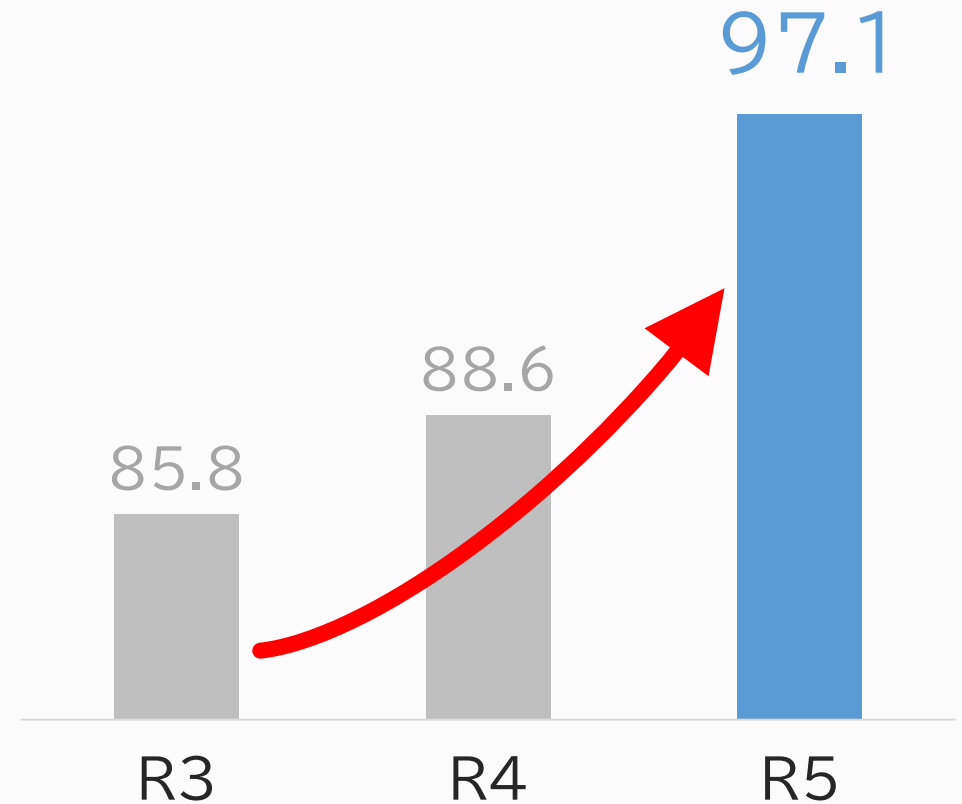


パフォーマンステストの状況

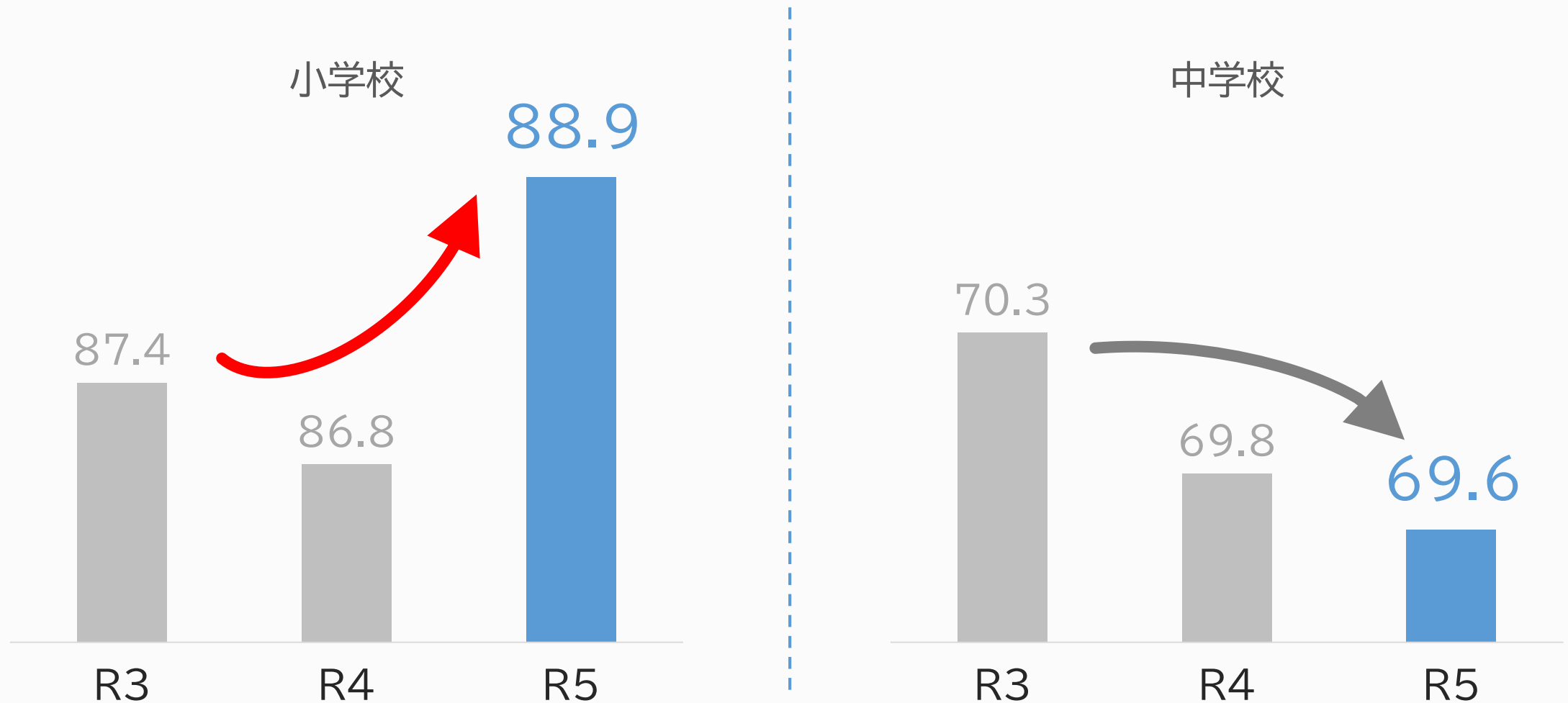
小学校(Sを実施した割合)



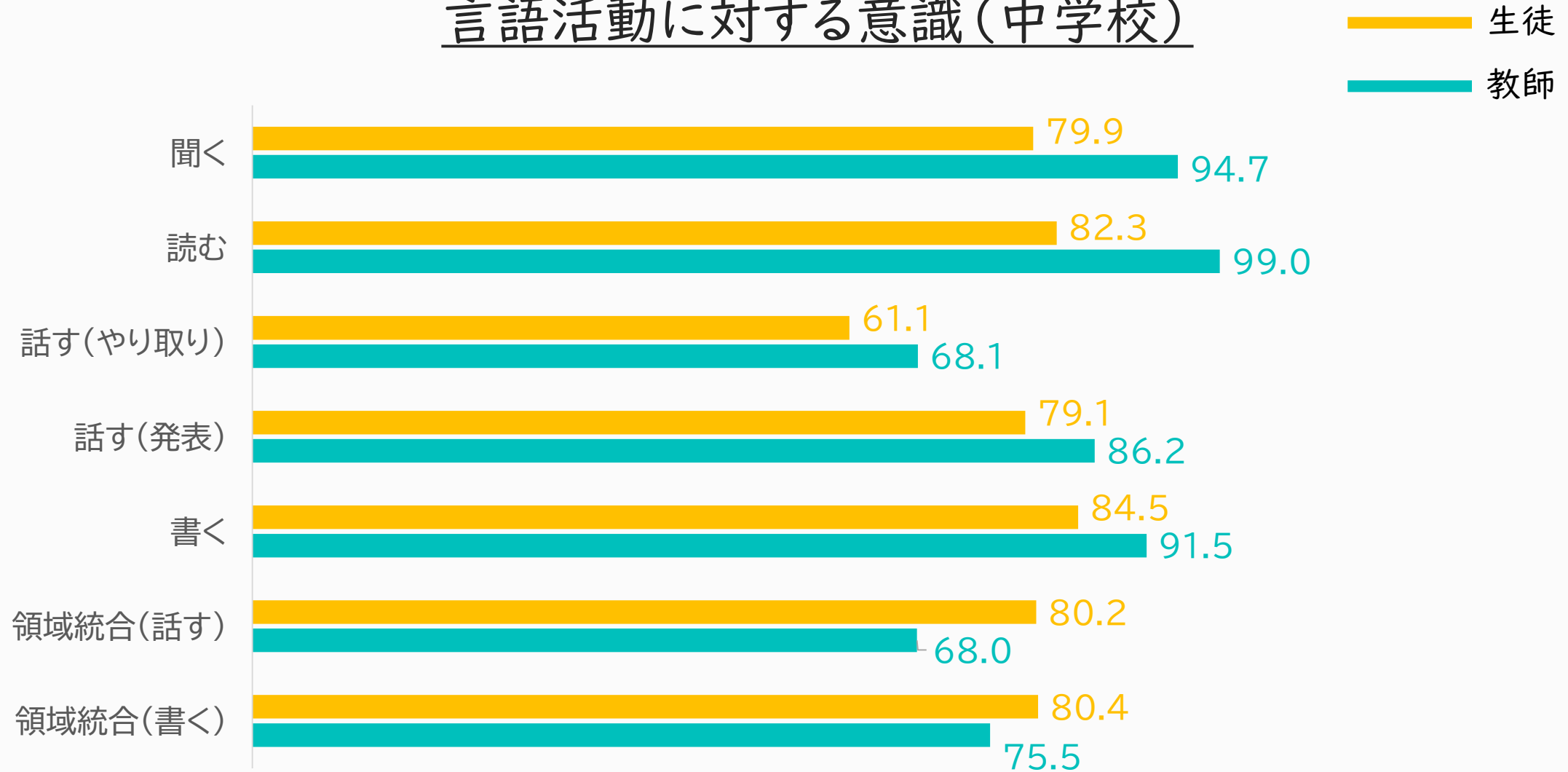
中学校(S/W両方実施した割合)



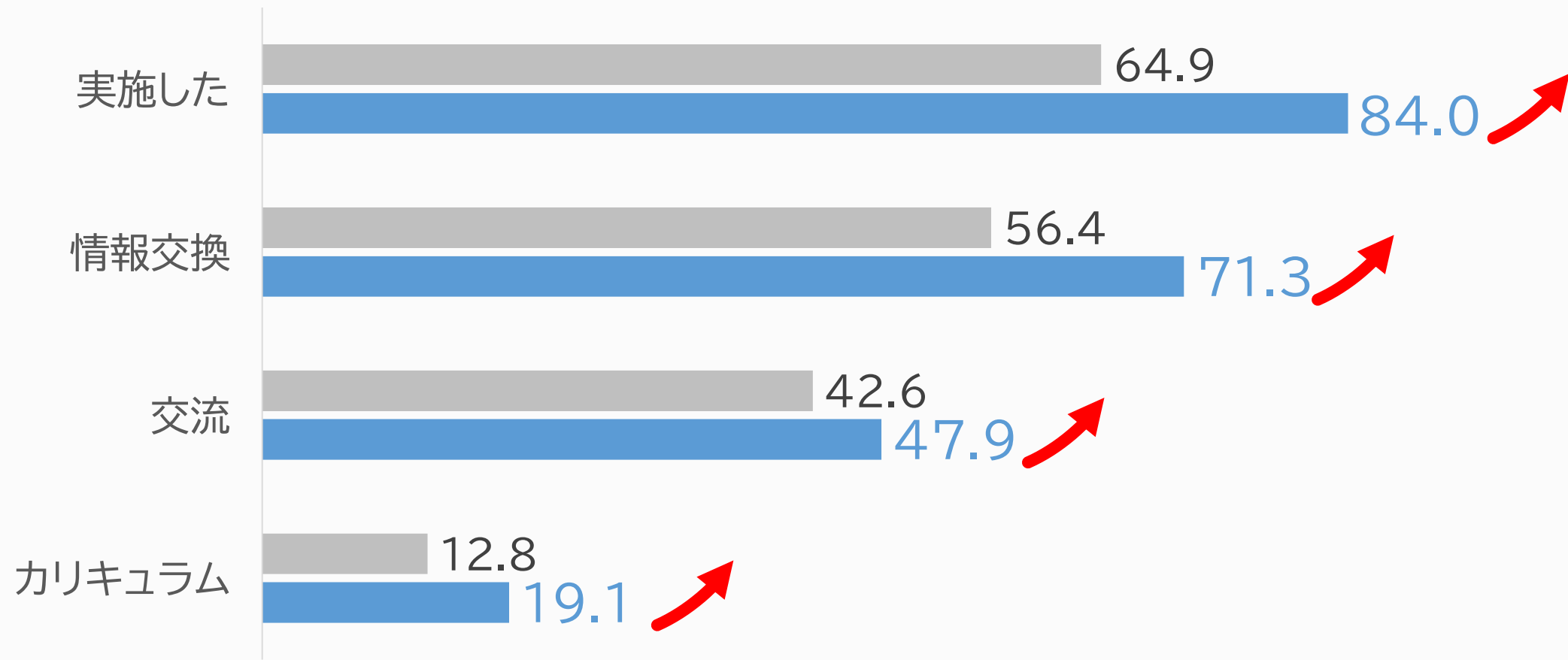
児童生徒の言語活動の割合（授業の50%以上）



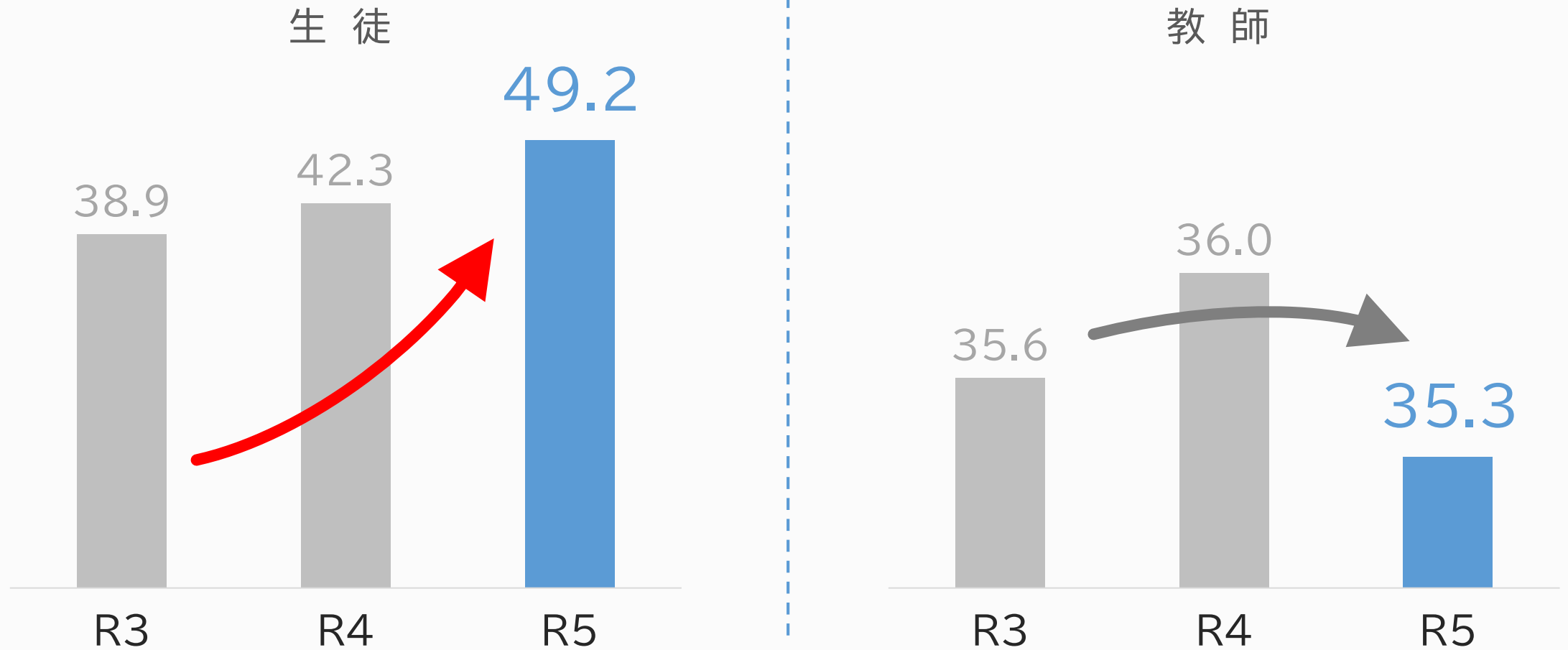
言語活動に対する意識（中学校）



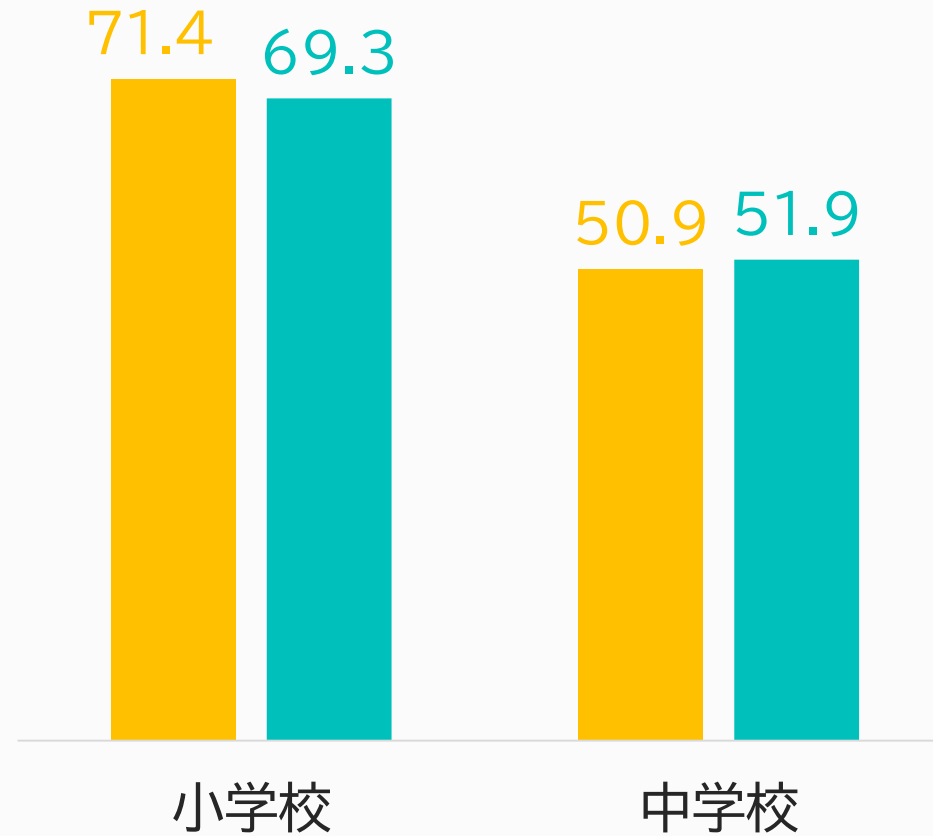
小中連携の状況



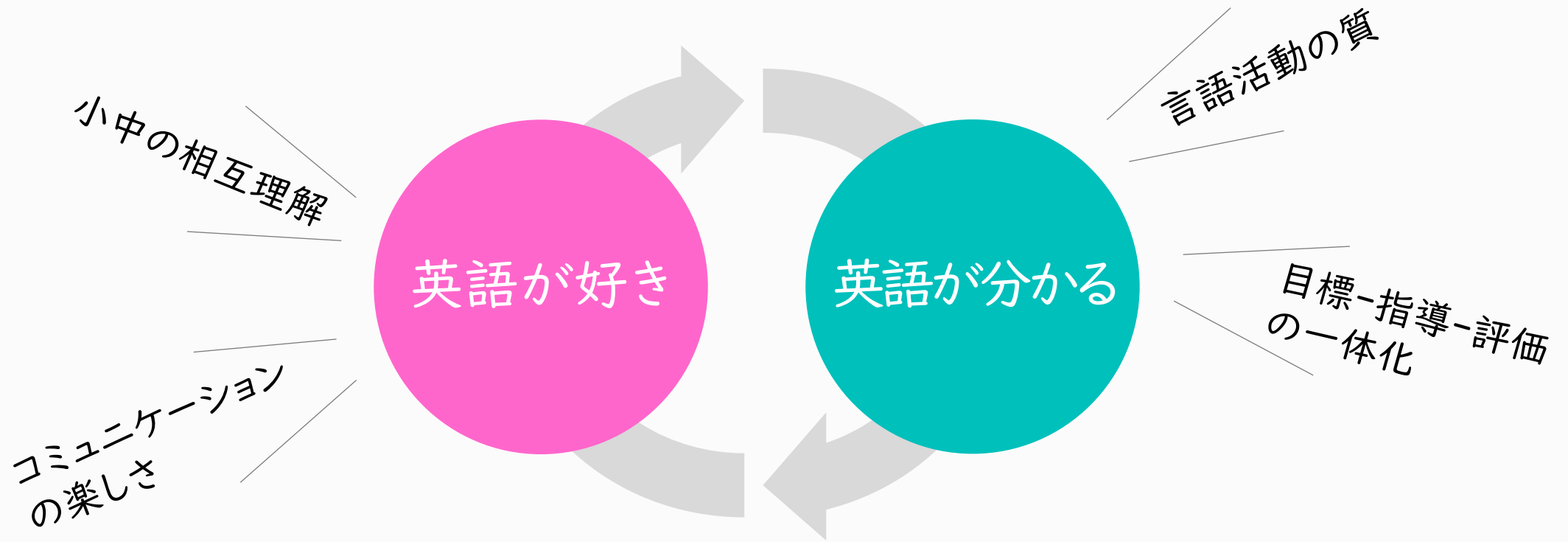
英語力の状況(中学校)



英語の勉強は好きですか？



「好き」「分かる」の好循環 + 授業の具体的なイメージを共有



「新時代の英語教育推進事業」のねらい・概要

新時代の英語教育推進事業

「英語教育実践リーダー」による英語教育の推進

～英語を用いたコミュニケーション能力の育成～

義務教育課

目指す子ども像

英語で自分の考えや気持ちを精一杯伝え合う子ども

小学校: 自分のことや身近なことについて、英語を使って伝え合う児童
中学校: 日常的・社会的な話題について、聞いたことや読んだことを基に自分の感じたことやその理由などを伝え合う生徒

目指す授業の姿

聞く・読む・話す・書くことの4技能が十分に高まり、もっと英語を使いたいと思える授業の実現

小学校: 十分なインプットを基に、英語でのやり取りを大切に授業
中学校: 既習表現を活用して、生徒自身が使用するべき表現を思考・判断する授業

対応

英語を用いたコミュニケーション能力の育成に向けた、教師の指導力向上

1 求められている英語教育を実践していく実践リーダーの育成
2 具体的な取組みを基にした実践や英語指導に関する情報の県全体への発信と共有

「英語教育実践リーダー」の育成

1 年間を通じた実践研究により、各年度20名(小10、中10)の教員の指導力を向上させ、各地区でモデルとなる実践を示す。

事業概要

- 計画・検証・改善を充実させる研究協議会(年3回)
- 外部講師を招聘した授業改善の充実(年2回)
- 英検 IBA と県作成評価問題を基にした指導改善 ※当該中学校で実施
- 非常勤講師の活用による授業補助や教材開発支援 ※当該小学校に配置
- 当該市町村教育委員会への訪問サポート(年3回)

英語教育実践リーダー(▽)

- 人間力があり、周囲の信頼が厚い者
- 授業改善の意欲に満ち、リーダーとして活躍が期待される者
- 校内外で継続的に英語教育推進に努める者

※各地区にチーム設置

県内への指導実践の発信・共有(クラウドサービスの活用)

2 地区毎のチームで指導実践(ノウハウ等)を各地区や県内に随時発信して、情報共有することにより、県内英語教員全体の指導力を向上させる。

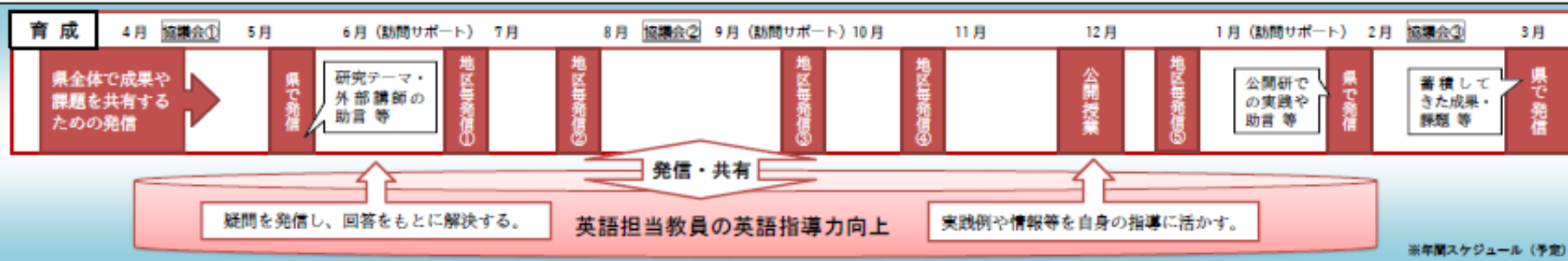
事業概要

- 公開授業研究会での実践普及(11月～12月)
チームメンバーが事前検証から事後検証まで関わりながら、各地区の代表が授業を公開
- チームから ICT 機器で実践事例発信(年5回)
地区毎にチームを組み、持ち回りで実践経過を発信
県で情報発信(年3回)
- 講師助言や公開研情報、実践事例等を発信

クラウドサービス
【Google Workspace for Education】

- 動画等のデジタル教材や参考資料を英語担当教員同士がオンライン上で共有して有効活用
- 実践リーダー同士のコミュニケーションを活性化し、より高いレベルの授業を実施
- チーム内での打ち合わせや校種別の情報交換等をオンライン上で実施

容量無制限



英語を用いたコミュニケーション能力の育成



目指す子どもの姿

英語で自分の考えや気持ちを精一杯伝え合う

小学校

自分のことや身近なことについて、英語を使って伝え合う

中学校

日常的・社会的な話題について、聞いたことや読んだことを基に自分の感じたことやその理由などを伝え合う

英語を用いたコミュニケーション能力の育成



目指す授業の姿

聞く・読む・話す・書くことの4技能が十分に高まり、「もっと英語を使いたい」と思える授業

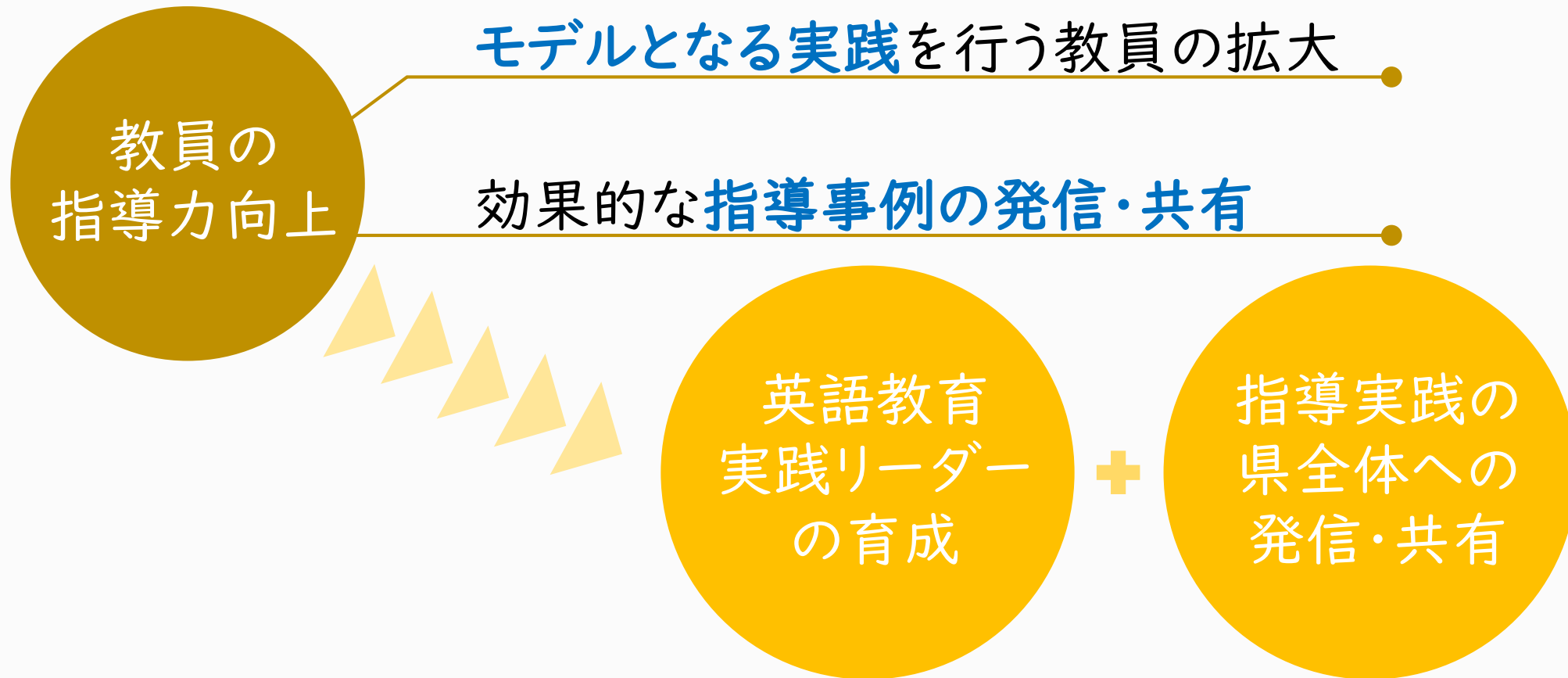
小学校

十分なインプットを基に、英語でのやり取りを大切にする

中学校

既習表現を活用して、生徒自身が使用すべき表現を思考・判断する

英語を用いたコミュニケーション能力の育成



英語教育
実践リーダー
の育成

1. 計画・検証・改善の充実を図る研究協議会
2. 外部講師を招聘した授業改善の充実
3. 英検IBAと県作成評価問題を基にした指導改善
4. 非常勤講師の活用による授業補助・教材開発支援
5. 英語教育実践リーダー相互の授業参観
6. 市町村教育委員会への訪問サポート

英語教育
実践リーダー
の育成

1. 計画・検証・改善の充実を図る研究協議会

▶ 3回の研究協議会を開催

①事業の見通し・計画

②実践経過の発表（オンライン）

③実践成果の発表（オンライン）

県内教員視聴

英語教育
実践リーダー
の育成

2. 外部講師を招聘した授業改善の充実

- ▶ 実際に来県していただいたの指導・助言 = 1回
- ▶ オンラインでの指導・助言 = 基本的に1回
- ▶ 研究のPDCAサイクルに効果的に位置付ける

英語教育
実践リーダー
の育成

3. 英検IBAと県作成評価問題を基にした指導改善

▶▶ 英検IBAについて

▶ 原則として担当学年の生徒が受験

▶ 約45分の試験時間で、ListeningとReadingを測る

▶ 9月頃の受験を予定

▶ 分析結果を基に指導改善し、Step Up評価問題を
活用して成果を検証

英語教育
実践リーダー
の育成

4. 非常勤講師の活用による授業補助・教材開発支援
 - ▶ 小学校に配置(週4×4時間)
 - ▶ 英語教育実践リーダーの指導力向上に向けた補助
 - ▶ 校内の英語教育推進に向けた支援

英語教育
実践リーダー
の育成

5. 英語教育実践リーダー相互の授業参観

- ▶ 日常の授業やプレ授業などを参観する機会
- ▶ 同地区に1回、他地区に1回授業を参観できる
- ▶ 小中連携を推進する視点から、異校種も参観することが望ましい

英語教育
実践リーダー
の育成

6. 市町村教育委員会への訪問サポート

- ▶ 市町村教育委員会とともに、各学校への支援
- ▶ 市町村教育委員会主催の英語推進会議等への支援
- ▶ 英語教育推進に向けた情報提供 など

指導実践の
県全体への
発信・共有

1. 公開授業研究会での実践普及（11月～12月）
チームで事前検証から事後検証まで関わりながら、
各地区の代表が授業を公開
2. クラウドサービス等の活用による実践の発信・共有
地区毎チームで実践を発信、県内教員との共有
3. 県で情報発信
講師助言や公開研情報、実践事例等を発信

1. 公開授業研究会での実践普及(11月~12月)

- ▶ 各地区、小中学校 各1校で開催
- ▶ チームで授業検討(事前から事後まで関わる)
(例)プレ授業、クラウド上で指導案検討など

指導実践の
県全体への
発信・共有

2. クラウドサービス等の活用による実践の発信・共有

▶▶ 実践の発信について

▶ 各地区持ち回りで発信

▶ 学習指導要領の趣旨に基づいた具体的な実践

▶ 発信の例

授業の様子を映像やスライドで発信

(指導上のねらいなど、コメントや解説を付ける)

指導実践の
県全体への
発信・共有

2. クラウドサービス等の活用による実践の発信・共有

- ▶▶ 実践の共有について（英語教育実践リーダー同士の共有）
- ▶ 英語教育実践リーダー・当該市町村教育委員会にGoogleアカウント配付
- ▶ コミュニティを形成し、チームとして研究推進、指導実践や教材の共有の場

指導実践の
県全体への
発信・共有

2. クラウドサービス等の活用による実践の発信・共有

- ▶▶ 実践の共有について（英語教育実践リーダー同士の共有）
- ▶ 第2回・第3回研究協議会
実践の経過や実践成果を実践リーダー同士で共有（県内教員との共有）

指導実践の
県全体への
発信・共有

2. クラウドサービス等の活用による実践の発信・共有

- ▶▶ 実践の共有について（県内の先生方との共有）
 - ▶ Googleサイト・県HP等での共有
 - ▶ Google Formsを活用したアンケート等の実施
 - ▶ 市町村教育委員会と連携し、各地区・他校で紹介
 - ▶ 第2回・第3回研究協議会での実践共有

指導実践の
県全体への
発信・共有

英語教育実践リーダー

実践研究

学習指導要領の趣旨を踏まえた実践を

実践と検証のサイクルを（授業改善チェックシートの活用）

発信・普及

育成を目指す資質・能力が明確な発信を

校内や地区内での積極的な実践共有・発信を

歴代英語教育実践リーダーの声

講師の先生のご指導から、自分の指導の方向性に自信を持つことができました。

経験の浅い中で不安でしたが、周りの先生方から学びを吸収し、非常に勉強になりました。

講師の先生のご指導が貴重な経験となりました。子どもたちの学ぶ姿勢にも変化がありました。

他地区の先生方とも実践を共有し、悩みを共有し、授業改善につなげることができました。

チームで事前研から事後研までともに悩んだことや意見をもらったことが何よりありがたく、大きな学びになりました。

研究協議会

第2回：9月10日(火) オンラインで開催
第3回：2月20日(木) オンラインで開催

計画書・報告書

計画書：5月7日(火) 中間報告：9月30日(月)
報告書：3月31日(月) ※義務教育課メ切

実践の発信

①6月下旬：村山 ②7月下旬：最上 ③9月下旬：置賜
④10月下旬：庄内 ⑤12月下旬：村山 ※発信時期の目安

英検IBA

9月下旬頃実施予定

年間を通して、英語教育実践リーダーの実践等を発信し、県内の先生方と共有します。
授業改善に向けて、県HPや県内学校限定のGoogle サイトで発信資料をぜひご覧ください。
また、各地区で英語教育実践リーダーが公開授業研究会を行います。
事前に案内しますので、一緒にスキルアップしていきましょう！

※Googleサイトへのアクセス方法等は、
今後各学校にお知らせします。

<県HP「英語教育推進」のページはこちら>

英語教育の推進 山形県

